

■成島柳北 戯作家、ジャーナリスト。将軍侍講職で意見し閑居度々、維新後、新聞界に鮮やか転身も、政府批判で筆禍度々。

なるしまりゅうぼく

大塩平八郎乱1837=

江戸浅草で、代々将軍の侍講を勤める家の奥儒者図書頭成島筑山の三男に生まれる。

柳北という号は、家が柳原の北であるところから付けた。

幼少から祖父・父の教育を受けて読書に励み、詩文に長じる。

阿部正弘首座1845= 8歳 :

孝明天皇・・1846= 9歳 :

ペリー来航・1853=16歳 : 父が死去したため、家督を継ぎ、

開国開港・・1854=17歳 : 侍講見習となる。

安政大地震・1855=18歳 : 奥儒者に任じられ、

徳川家定・家茂に経学を講じる。

桜田門外変・1860=23歳 :

「徳川実紀」「後鑑」の編纂に携わる一方、しばしば幕閣に献策するも容れられず、

8月18日政変 1863=26歳 : 狂詩を賦して幕閣の因循を諷したかどで侍講職を免ぜられた。

禁門の変・・1864=27歳 :

塾居するうち、幕府が洋式の兵制を採用すると、儒学を捨てて洋学を習得。栗本鋤雲の推薦を得て、騎兵頭から騎兵奉行となったが、その改革をしようとして容れられず、退いて再び閑居、

薩長同盟・・1866=29歳 : 徳川慶喜が将軍になるに伴い、抜擢され、外国奉行兼会計副総裁の要職に就任。

明治維新・・1868=31歳 : 慶喜が江戸開城に応じて<明治維新>がなったことに耐えられず、“天地間無用の人”を自称して隠棲する。

学問のすすめ1872=35歳 : 東本願寺法主に随行して欧米を漫遊。

明治6年政変 1873=36歳 : 帰国。

佐賀の乱・・1874=37歳 : \*「柳橋新誌」初・2編を刊行、ついで{朝野新聞}の主筆に迎えられる。

初の民間工場1875=38歳 : 政府が新聞紙条例を發布すると、これを批判した戯文を掲載し、

三つの反乱・1876=39歳 : \*「新聞供養大施飢鬼」を主催するなどして、一時入獄の身となり、その姿勢が評価されて出獄後は売上が倍増、果敢な抵抗や軽妙洒脱な時事風刺で、新聞界の大御所となったが、

西南戦争・・1877=40歳 : \*<西南戦争>には遅れをとって衰退、漢詩文雑誌{花月新誌}を創刊・主宰する。

大久保暗殺・1878=41歳 : \*大久保利通暗殺をスクープしたものの、当局の忌諱に触れて発行停止になる。肺患に罹ったため、以後、療養旅行をしては紀行文を著すなどしていたが、

明治14年政変1881=44歳 :

新体詩抄・・1882=45歳 :

秩父事件・・1884=47歳 : 悪化して没した。